

KAS

風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷
相模原市中央区田名7236-3
発行責任者 政野 光廣
042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp

地域交流バザー特集!

たくさんのご来場とご協力、誠にありがとうございました



【2015年 夏号】

| | | | |
|-------------------|-------|--------------|-----|
| ◇巻頭文 | P 2 | ◇自閉症支援センターより | P 3 |
| ◇特集「第16回地域交流バザー」 | P 4・5 | ◇自閉症について | P 6 |
| ◇ヘルパー便り・グループホーム便り | P 7 | ◇後援会のページ | P 8 |

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲2-11-6-109

毎月15日発行 購読料1部 15円

自閉自慢～佐藤辰男様を偲んで

当法人の評議員であり風の谷後援会長を務めていただいた佐藤辰男様が本年4月18日に逝去されました。享年68歳でした。昨年の夏に体調を崩されて以来闘病生活を送っておられましたが誠に残念な結果となり言葉もありません。

佐藤様は自閉症の男のお子さんお二人の父親でもありました。温かく包み込むようなお人柄で人望も厚く、神奈川県自閉症児者親の会連合会会長等を歴任されておられました。

ご長男はご自宅のある厚木市内の他の福祉事業所へ、ご次男は当法人のやまびこ工房に通われており、会社をリタイヤされてからは毎日のようにご自身で車を運転してご次男の送迎をされておりました。体調の異変に気づいたのも送迎時であったとのことでした。

佐藤様のご次男が2000年4月にやまびこ工房を利用開始した際に、神奈川の自閉症親の会の会長をされていることを知っていましたので、現役の会長とお近づきになれることに頼もしさのようなものも感じておりました。相模原市は中核市を経て現在は政令市ですが、当時は一般市でしたので補助金等障害福祉施策の交渉窓口は主に神奈川県でした。神奈川の自閉症支援施策の充実をめざし、自閉症親の会と自閉症支援施設がタッグを組むことが当時きわめて有効のように思っていました。

そのような経緯もあり、2003年に当法人で評議員会を発足する際には真っ先に声をかけさせていただきました。その時ご快諾をいただいて以来、今日に至るまで評議員の任に当たっていただき、法人として意思決定をする前段階の会議や打ち合わせにも数多くご出席いただきました。困難な課題に直面し、心が押しつぶされそうになる時も、柔和な佇まいでそこにいていただくことで私自身がどれほど励まされ、そして勇気をいただけてきたことか…。

佐藤様は評議員会の中でもムードメーカーで、会議終了後に懇親の場を設定した際は、必ずと言っていいほど参加してくださいました。そして、懇親の会話の中ではいつも「自閉自慢」に花を咲かせていました。即ち、自閉症のご子息との生活を実に楽しげにかつ誇らしげに話して下さるのです。たとえば、消灯時間が決まっていて、夜は定刻になるとご子息がすべての電燈を消すため、仕事で帰宅時間が遅くなると家の中が真っ暗で、懐中電灯をつけて家に入るといったエピソードや、ご子息が晩酌の用意をしてくれるのだが量が決まっていて、お代わりをさせてくれないといったエピソードなどを、「いやぁ参った。だけど実に面白い」と話して下さるのを聴いていると、同席している人たちのイマジネーションが刺激され、もっと知りたい、関わりを持ってみたい、そんなムードをいつも醸成して下さったように思います。

2011年からは風の谷後援会長を務めていただき、地域交流バザー等で和やかな雰囲気 연출して下さったり、近隣の学校等へのあいさつ回りにご一緒させていただいたりした時の温かなお姿が目に残り付いております。

佐藤辰男様のご冥福を心よりお祈りします。

(常務理事 中島博幸)

相模原自閉症支援センターより

第二やまびこ工房が開所し3か月が過ぎた。開所時は養護学校高等部の卒業生から利用された。数名ではあったが、実は不安もあった。

やまびこ工房に10年以上勤務してきた。入職当初は、毎日のように他害や自傷、もの投げ、破壊行為さらに行方不明など心を騒がす出来事が続いていたと記憶しているが、実際は1週間に1回くらいのペースだったのかもしれない。だが、2週間は経たずに起きたのは確かであった。

それが徐々に刺激の少ない日が増えて来て「大変大変!!」と言われても、オオカミ少年の言葉を聞くかのように聞いてしまうようになってしまった。どうしてそんな風になったのか？正確な検証は難しいし、要因を挙げても結局それを知っているのは自閉症者の感性であろうから自分には理解できない領域であるので、仕方なく抽象的に言うと年数を重ねることによって台風が来ても大雪が降っても倒れない樹木になったからだと感じていた。だから、養護学校を卒業されて、通所を開始される方々を安心して受け入れることができた。だが、大木にまでは至っていないと思っている。

一方、幼木のような第二やまびこ工房で、年長の自閉症者のように環境の変化に柔軟に対応できるようになってはいない10代の自閉症者から最初に利用をお受けすることは、今まで言っていた「大丈夫です」という言葉よりも小さな声になっていた。さらに開所時の支援者も入職したばかりの伊波支援員と大塚支援員と、相談の仕事が増えてたまに支援に入ると他の支援者から「余計なことはしないでくださいと言われてしまう」自分の3人だった。このように？自閉症支援というのは年数を重ねた支援者が相応しいのではなく、私達にはない価値観と感覚を少しでも理解しようとする支援者が適任なのである。さらにやまびこ工房を真似たいのではなく、改めて個々の特性に寄り添った自閉症支援の多様なあり方も探ってみたかった。そのためには新人職員と一緒に仕事をしてみたかった。

新しい利用者と新しい職員とだけの日中活動が始まった。予期していた不安とは裏腹にじつくりと支援を検討することが久しぶりに出来て有意義な時間であった。“どう自発的に作業を行ってもらうか”“トイレのサインを出して、トイレに行くものの、排せつはなく、ペーパータオルやトイレットペーパーを千切って遊んでしまう、どうしたらいいか？”“編み物をやってもらいたいが、雑になってしまったり、拒否して投げてしまう、どうしたらいいか？”などなどそんな疑問を一緒に考えながら支援し、作業を熱心に取り組んでいる利用者やその準備を試行錯誤している支援者を見るのは楽しい。

予期していた以上に利用者も支援者も第二やまびこ工房に早く馴染んでくれた。しかし、もちろん無い方がいいが何事も無いのもどういいうわけか空虚感を感じてしまい、正直寂しくなってしまった。そこで第二やまびこ工房の利点を挙げて説き伏せて、やまびこ工房から刺激的な利用者と熟練の支援者を呼び寄せることが5月6月で出来、現在は20名ほどの利用者が通所されている。

残念ながら、今のところやまびこ工房の二番煎じになってしまった感がある。立地も環境も建物も違うし、利用者も異なるのだからやまびこ工房とは異なる特色が出てこなくてはならない。私自身がやまびこ工房の支援スタイルを頭の中から払拭できないためかもしれない。数年経た時にやまびこ工房と第二やまびこ工房とがどういう姿になっているか。“違っているけど”の後に続く言葉に期待して欲しい。

最後に

この仕事の喜びは魅力的な自閉症児・者に出会えることだけではない。自分の家族のことだけでなく、他のご家族のことまでも案じ、私たち支援者の待遇にまで心配してくれるご家族と出会えることにもある。酒の席で酔っ払いながらもそんな話をされた佐藤辰男さんが旅立たれた。悲しんで立ち止まっていたのは叱責されるであろう。辛い病床でも笑顔を見せてくれ、握ってくれた手の温もりは右手の記憶のうちにある。このような方に褒めて頂ける人間になれるように精進したい。

(薬師丸)

第16回 地域交流バザー



名物「男の焼きそば」は今回も大人気！昨年よりも作る数を増やしましたが、それでもあっという間に売り切れていました。



子どもコーナーは空前の大賑わいでした。ここで遊ばれた方はなんと200名以上！利用者もいっしょって楽しそうに遊ばれていました。



うどんやフランクフルト、たい焼きなどの定番のお店も大賑わいでした。味噌おでんの味噌や、うどんの天かすは利用者のご家族のお手製です！



もう、おなじみとなったドゥ・シルフィードの演奏です。にぎやかなお店が並ぶ外とは違った、落ち着いた雰囲気喫茶コーナーで皆さん音楽を楽しまれました。



毎年来てくださる常連の方も多し、自主製作品のコーナーです。今年もたくさんの製品が売れていましたが、特にアクリルタワシが人気でした。

いい匂いにつられてついつい買ってしまいう焼き鳥。飛ぶように売れていました(鳥だけに！)。



大人気の野菜コーナーは、本当の採れたて。持ってくる野菜がすぐに売り切れてしまうほどの大盛況ぶり！一輪車で運ぶのも大変でした...



今年で第16回を迎えた地域交流バザーは、朝から好天に恵まれ、多くの方にご来場いただきました。各コーナーも例年以上の大賑わいで、あちこちから明るい話し声が飛び交っていました。

近隣にお住いの方々からは「今年も盛り上がってるね」「来年も楽しみにしてるよ」などの温かい言葉をいただきました。また「ここはどんな施設なの？」といった質問もあり、やまびこ工房そのものに興味を持っていただける機会でもあるのかもしれない。地域の方々、以前やまびこ工房を利用されていた方、今利用されている方、そしてこれから利用される方が交流できる開かれた機会としてこれからも多くの方々にご参加いただきたいと思います。



生花コーナーは楽しみにされていた方も多く、今年は完売となりました。こちらも園芸の得意なお母様方が用意してくださいました！

自閉症について ～私が感じたこと～

自閉症の方々と関わるようになりまだ日は浅いですが、その中で思ったこと、感じたことを、これを読んでくださった方に少しでも伝わればと思います。

私が一番感じたことは、【自閉症】とは個性だということです。まったくの別世界からこのやまびこ工房に来た私には、未知の世界でした。その中で関わる利用者の皆様と実際に関わりを持つようになり、ひとりひとり行動が違い、好みが違う、表現方法も違い、たくさんの「違い」を体験することになりました。本などを読んで自閉症の事を知ろうとしました。もちろん知識的な部分を覚えることはとても大切なことですが、一番大切だと想うことは、直接関わり、一緒に過ごし、ひとりひとりとしっかりと向き合うことだと感じました。

2月に入職し6月の第2やまびこ工房への移動になるまでは、第1やまびこ工房でたくさんの方々と関わることができました。物の位置のこだわりがある方、甘え上手な方、音が苦手な方、お散歩が好きな方、氷や冷たいものが好きな方、数字を覚えることが得意な方、歌を必ず歌う方、新聞などの文字を読むことが好きな方、辞書を読むことが好きな方...たくさんの方々の個性を持った方々と関わり、いろいろな個性を知ることができました。天候などの環境的要因で普段とは違う行動が出ることも知りました。そんな生活を過ごして感じたことは、上記にも示したように、ひとりひとりの方と向き合い、共に同じ時間を過ごすことの大切さでした。彼らは何が好きか、何が嫌いなのか、何が苦手なのか、何が安心するのか。ひとりひとりたくさんの方々の「何が～」を持っているので、その情報・個性を私たち支援者が少しでも多く発見しなければと感じました。6月で第2やまびこ工房へ移動が決まり、担当を持たせていただいていた利用者の方にその報告をしました。ある方は「寂しい」と言って涙を流してくれました。私は、その日までの彼らとの関わり方に間違いはなかったのだと感じることが出来ました。本当にうれしかったです。

6月になり第2やまびこ工房での活動が始まりました。一緒に移動した利用者、新しい利用者と一緒に試行錯誤しながら新しい環境を作っている最中です。短い間だったのですが、第1やまびこ工房で学んだこと、感じたことを活かしていき、第1やまびこ工房に負けなぐらいの素晴らしい第2やまびこ工房を職員、利用者・ご家族の皆様と共に築いていきたいと思っています。



(八木)

ガイドヘルパー便り

梅雨の時期になり、外出がおっくうになる方も多いのではないのでしょうか。やまびこ工房では、こんな時期でも、たくさんの利用者がヘルパーと外出を楽しまれています。

そんな毎日の活動の積み重ねの中で、場所によっては、当たり前のように自閉症の方に合わせた対応を下さる地域の方がいらっしゃいます。

原当麻駅近くにあるモスバーガーでは、ある利用者が行くとハンバーガーやポテトの注文に応じて準備をされながら、一口サイズにカットして出してくださり、一息に召し上がる方への配慮を、ヘルパーの依頼なしに行ってくださっています。もちろん利用し始めの頃にはヘルパーが説明し、依頼をしていましたが、今では、顔なじみの店員さんだけでなく新しいアルバイトの方にも引き継ぎがされていて、当たり前小分けにした状態を出していただいています。

最近は様々なお店でヘルパーに向かってではなく、利用者本人に対して説明やお釣りの受け渡し等を行っていただけることが当たり前になってきました。以前は、なかなかご本人への対応にならず、始めからヘルパーの方を向かれることが多くありました。こういったことも皆さんが外へ出ていく中で起きてきた変化だと思います。

特別な配慮が必要な方もいらっしゃいますが、当たりの対応を当たり前にしていただけるのが、とても嬉しいです。(野田)



ナウシカ便り



今年に入りナウシカに大きな変化がありました。それは玄関先に金属製の3tもの大きな貯水タンクが設置されたことです。

近年相次いだ福祉施設の火災事件を受けて消防法が改正されました。グループホーム等の施設にはスプリンクラーの設置が義務化されたのです。

ナウシカも年明けから工事を行いました。当初は室内にスプリンクラー装置が設置される事、玄関にある樹木を伐採し大きな貯水タンクが出来る事などたくさんの変化を皆さんが受け入れてくれるかな？工事を気にしないかな？と色々な心配をしていました。

約1ヶ月に渡る工事期間のなか、普段の生活をしながら少しずつ変化する過程を見ていたことで皆さんまるで当初からそこにあったかのように自然とスプリンクラーを受け入れられていました。

終わってみると私の方が大きな貯水タンクを見慣れるまで時間がかかってしまいました。

今日もナウシカの玄関先に「ドン！」と構えた大きなタンクは皆さんが安心して暮らせるように見守っています。(田辺)



後援会のページ

この度佐藤辰男様の後任として後援会長に就任しました堀田です。微力ですが少しでもやまびこ工房に通う子供たちや家族会の皆様・職員の皆様のお役に立つことができればと思っています。

先日今年度の地域交流バザーを無事終えることができました。天候に恵まれた為もあり、用意の物も沢山買っていただき大変盛況だったと喜んでます。これも後援会の皆様のご協力と心より御礼申し上げます。

さて今年度初めには第二工房が開所致しましたが、規模が拡大したことにより後援会としてもその役割が大きく重くなって参ります。会員の皆様には今後とも厚いご支援をお願い申し上げます。

私事ですが、我が家の息子は毎日大事な宝物を沢山リュックに詰め込んで楽しみに工房へ通っていますが、早くも今年40歳になります。今まで私ども家族三人は本当に多くの方々から支えられて来ました。障害を認識した幼児期、成長を期待した学生時代そして親としての対応が難しくなった成人してから。それぞれの時期に専門の医師や学校の先生・工房の職員の皆様そして知人や友人などから篤いサポートをいただいたことで、ここまでやって来ることができました。

これからは後援会の皆様と共に障害を持つ方々やそのご家族に寄り添って参りたいと思っています。

風の谷後援会会長 堀田脩司

平成26年12月19日～平成27年5月25日現在 (敬称略)

【新規・個人】(相模原市) 都築正拓 長尾浩 (相模原市外) 大澤宏二 (座間市)

【更新・個人】(相模原市) 安藤美由紀 石崎守 井上響子 井上進 大久保敬二 小川幸枝 荻原常寿 川合義正 川島和章 菊池みどり 小針徳枝 近藤幸子 斎藤真澄 佐藤しづ子 篠崎繁雄 島森隆夫 清水徹 菅照雄 鈴木秀美 高田晋 田中三郎 豊田幸男 中村成美 西田明美 野崎廣子 古澤倫子 辺見祐二 堀田脩司 政野大 政野光廣 水沼武 三田二三夫 柳場秀雄 山崎テル代 (相模原市外) 上城洋一 工藤真弓 中塚正彦 (座間市) 安藤紀子 (横浜市) 上城敏明 (町田市) 新井靖数 佐藤つかえ 樋口里美 山井京子 (厚木市)

【ご寄付・ご協力】神奈川県自閉症児・者親の会連合会 神奈川県知的障害施設団体連合会 相模原市社会福祉協議会 相模原市民生委員児童委員協議会 相模原市社会福祉事業団 相模原市自閉症児・者親の会 田名地区社会福祉協議会 相模台地区社会福祉協議会 相模台地区民生委員協議会 (株)日本環境設備 (有)伸和トラスト 新宿自治会 新宿小学校 相模原中央支援学校 相模原養護学校 津久井養護学校長 座間養護学校 (福)喜楽会 (福)相模福祉村 (福)たちばな福祉会 (福)清水地域福祉奉仕会 (福)山久会 (福)すずらんの会 (福)県央福祉会 (福)さがみ愛育会 (福)慈恵療育会 (福)かながわ黎明会 (福)かわせみ会 (福)翔の会 (福)聖音会 (福)星谷会 (福)らっく ドゥ・シルフィード のぞみ ワーカーズキュービク相模原 稲木俊夫 小泉あずさ 島森政子 清水哲平 清水洋子 関水実 辺見弘代 松本雄二 宮田勇 柳沢誠一 柳場秀雄 谷津建設(株) 創デザイン工房 その他たくさんの方にご協力をいただきました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

『風の谷後援会』事務局

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内

TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345